

学生にみる自転車の利用と通学手段について

福島工業高等専門学校〇学生会員 吉田大輝

正会員 齊藤充弘

1. はじめに

一般的な自転車の利用目的として、主に2つのことがあげられる。交通手段とレクリエーションである。自転車を利用することで、交通費を節約することができたり、公共交通機関の待ち時間を短縮したり、適度な有酸素運動として健康を維持したりなどのメリットがある。また、景色を眺めたり、坂を上り切った時の達成感を得られたりなどの自転車本来の楽しさというものも味わうことができる。また、地球温暖化が加速している現代では、自転車の普及は環境の面でもかなり注目される。しかし、他の先進国と比較して我が国の道路状況は悪く、自転車専用道路などの走行空間を確保している場所も少ない。福島県いわき市でも、坂が多く道路の幅員が狭いところがほとんどである。交通弱者である学生にとっても、自転車は有効な通学手段であるものの、実際に利用してみると利用しづらい危険な箇所が多く、その改善が望まれる状況にある。

本研究は、学生を対象とした自転車利用の実態を明らかにすることを目的とする。具体的には、日常生活と通学時における自転車利用の現状を明らかにし、自転車を利用するか否かの理由と利用するための条件を明らかにする。その上で、自転車の普及にむけたまちづくりへの取り組みに必要なことの示唆を得ていく。

2. 研究対象と方法

本研究が対象とするいわき市は、地方都市に共通するモータリゼーションが進行し、公共交通機関の利用についても交通弱者にとっては不自由を感じる現状にある。そのため、通勤はもとより通学手段においても自家用車による送迎が多くみられる。いわき市を対象とした先行調査¹⁾により、表1にみるような高校生の自転車利用の実態が明らかにされている。時間や費用、

表1 高校生の自転車利用について¹⁾

【通学時の自転車利用について】
・時間や交通費が交通手段を選択するうえで重要視されている。
・男子学生の割合が高いと、自転車利用率も高くなっている。
・女子学生の自転車利用率は低く、徒歩の割合が高く多くなっている。
【日常生活における自転車利用】
・自転車の所持の有無に関わらず、利用していない割合が半数以上みられている。
・自転車利用時に感じる点として、道の狭さ、凹凸、坂の多さなどいわき市のハード面の問題や地理的特性などがみられている。
・人や自動車の通りが多いことや走行位置の不明確さも挙げられ、自転車の通行スペースの明確化も課題となっている。
【自転車を利用する理由・しない理由】
・利用する：渋滞がなく、自由が利く、健康の維持・増進などが挙げられている。
・利用しない：天候に左右されたり、体力的な問題、盗難の心配などが挙げられている。

体力など個人の重要視する条件により通学手段が選択されていることがわかる。しかしながら、運転免許を有しない交通弱者であるため、自家用車は選択肢になく、それに代わる自転車利用を検討するためには年代の違いや免許所持なども考慮する必要がある。そこで、本研究では中学卒業後の年齢から成人するまで学生生活を送る高等専門学校の学生を対象として、日常生活や通学手段における自転車利用の実態を明らかにするためにアンケート調査を実施した。

調査の概要を表2に示す。ここでは「通学時の移動手段について」に加えて、「日常生活における自転車利用について」や「自転車を利用する上で感じる点」など、自転車利用に関する14の調査項目を設定して実施した。ここでは、第1学年～第5学年まで1クラスずつ抽出して集計・分析した結果についてみていく。

3. 通学時の移動手段について

3.1 利用する交通手段

「通学時に利用する交通手段について」（複数回答可）その回答割合をみたものが、図1である。

これをみると、全体としては「徒歩」の回答割合が20.4%と最も高くなっており、次いで「鉄道」が16.1%、「スクールバス」が15.5%、「自家用車(送迎)」が15.0%、「路線バス」が14.7%となっている。このようななかで、「自転車」は12.6%となっている。自転車利用について学年ごとにみると、低学年の1年生で18.4%、2年生で17.6%となっているものの、高学年になると4年生が5.4%、5年生が12.6%とその回答割合が低くなっている。自転車の回答割合が低い4年

表2 アンケート調査の概要

調査期間	2016年12月	調査方法	配票調査法
調査対象	高等専門学校本科学生(配布数:1,022)		
調査項目	●自身について ①学年 ②性別 ③居住地区 ●通学時の移動手段について ①利用する交通手段 ②選択理由 ③通学経路 ④自転車を利用して感じる点 ●日常生活における自転車利用について ①利用頻度 ②利用目的 ③自転車を利用しない理由 ●自転車を利用する上で感じる点 ①使いにくいと感じる点 ②必要だと思うもの ●入学後の通学手段の変化について ①通学手段変化の有無 ②変えた・変えない理由		

キーワード：自転車、通学手段、都市内移動、まちづくり

連絡先：福島工業高等専門学校建設環境工学科 〒970-8034 福島県いわき市平上荒川字長尾30 TEL:0246-46-0830

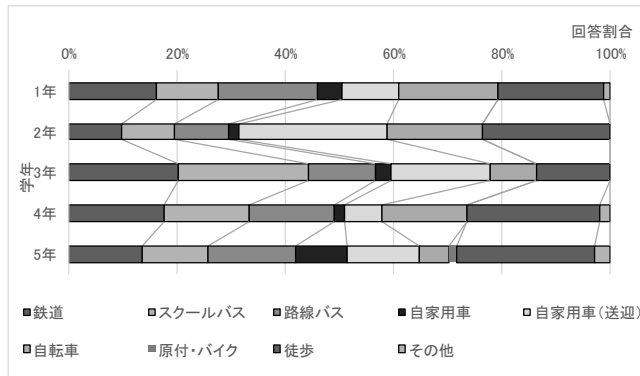


図 1 通学時に利用する交通手段

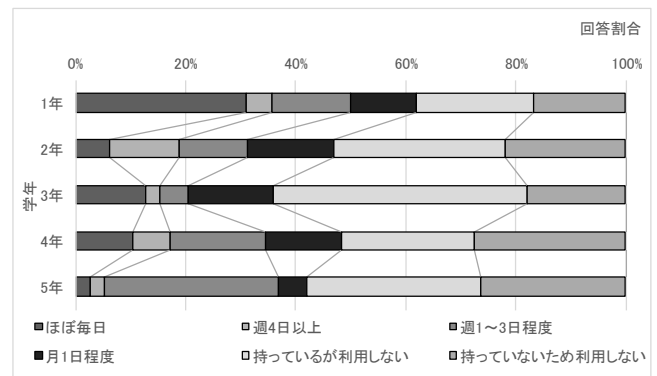


図 3 日常生活における自転車利用頻度

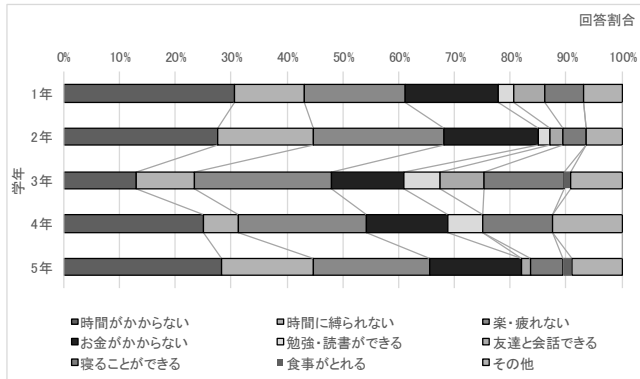


図 2 交通手段を選択する理由

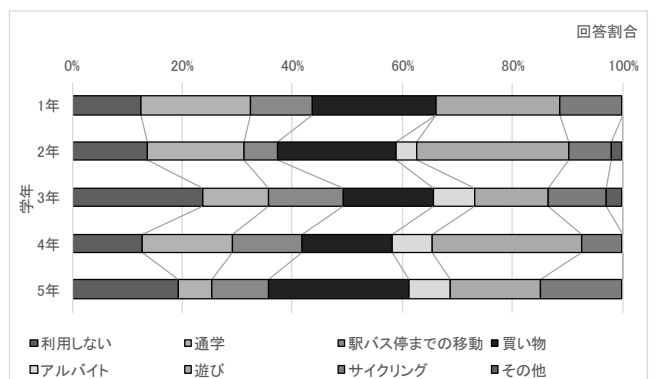


図 4 日常生活において利用する目的

生においては、「徒歩」が 25.7%と高くなっており、「自家用車」が 9.5%、「原付・バイク」が 1.4%と高学年に入ってから許可される通学手段が選択されている。

3.2 交通手段を選択する理由

「通学時に利用する交通手段を選択する理由」（複数回答可）について、全体としてその回答割合をみたものが、図 2 である。これをみると、全体として「時間がかからない」（回答割合 24.4%）、「楽・疲れない」（同 21.9%）の回答割合が高くなっている。このうち「時間がかからない」については、1 年生（30.6%）と 5 年生（28.4%）で回答割合が高くなっており、3 年生の回答割合が 13.0%と最も低い形となっている。このことは「お金がかからない」についても同様のことをいうことができる。

4. 日常生活における自転車利用について

4.1 利用頻度

日常生活における自転車の利用頻度について、全体としての回答割合をみたものが図 3 である。これをみると、「持っているが利用しない」の回答割合が 31.1%と最も高くなっている。次いで、「持っていないため利用しない」が 21.7%となっており、どちらかという利用しない人が多いことがわかる。そのことは、高学年においてより顕著となっている。「ほぼ毎日利用する」人は、全体で 13.3%となっており、1 年生において 31.0%と高くなっている。対称的に、5 年生においては 2.6%と低くなっており、学年の進行とともに自転車を利用しなくなる実態をみることができる。

4.2 利用目的

自転車の利用目的について同様に図 4 にみても、全体として「遊び」（回答割合 20.6%）、「買い物」（同

20.6%）と高くなっている。「遊び」は低学年において高く（1 年生で 22.5%，2 年生で 27.5%），5 年生では 16.4%に止まっている。「利用しない」という回答割合は、全体として 16.6%みることができ、これも 5 年生において 19.4%と高くなっている。一方、「サイクリング」については、5 年生において 14.9%と全学年のなかで最も高く、低学年では低くなっている。

5. おわりに

本研究の成果として、次のことをあげることができる。第一に、通学に利用する交通手段の実態を明らかにし、その中で自転車利用の現状について明らかにすることができた。

第二に、日常生活における自転車の利用頻度や利用目的を明らかにする中で、自転車を利用する上での課題となり得ることについて明らかにすることができた。いずれの項目においても、高等専門学校の 5 学年にわたる学年による違いや共通点を見出すことができた。今後は、距離や所要時間との関係や、他の交通手段との選択基準について追究し、まちづくりへとつなげる自転車を利用するための方策の検討が必要である。

参考文献

- 1)熊谷純樹，齊藤充弘：通学手段における自転車利用の実態について，平成 27 年度土木学会東北支部技術研究発表会Ⅳ－33，2016
- 2)古倉宗治：実践する自転車まちづくり～役立つ具体策～，学芸出版社，2014.
- 3)古倉宗治：成功する自転車まちづくり～政策と計画のポイント～，学芸出版社，2010
- 4)太田敦史・中出文平：地方都市圏での新駅設置に着目した市街地と公共交通体系の斉合性に関する研究，都市計画論文集 No.39-1，pp.1-10，日本都市計画学会，2004 年